

委員	<p>私立の保育園には、園ごとに栄養士や看護師がいることが多いが、公立保育所は園ごとには在籍していない。保育課の専門職がまとめて全園指導している。いずれの園も保育園は子どもたちに対して十分な活動をしていると考えている。</p> <p>パンフレットを3歳児健診で配布しているとのことだが、3歳児健診は3歳半位で受けることになる。「早寝早起き朝ごはん」というのは私共も合言葉のように子供達の生活の中に浸透させたいと思うキーワードであり、3歳児健診前の年齢の子どもの家庭に配布し、生活リズムの普及啓発ができると良いのではないかと感じた。</p>
議長	<p>貴重なご意見をいただいた。なるべく早い時期から取り組みをした方が良いという意見をいただいた。今後の課題に加えるべきことかと思う。</p> <p>では次の項目、児童・生徒への食育推進について。学校ファームというのは学校で野菜作りをしていると考えて良いか。</p>
委員	<p>学校によって敷地が異なるため規模はそれぞれと思うが、子ども達の活動として野菜作りを行っている。</p>
委員	<p>学校ファームは富士見市内全小中学校で実施しているのか。また全児童に対して行っているのか、それとも何年生以上などとなっているのか。給食センターとの食育授業は全学校で行われているのか。</p>
委員	<p>取り組む学年が決まっていると思う。</p>
委員	<p>学校ごとに希望する学校ファーム用苗の注文を受けているが、何年生がやっているのかは分からない。</p>
委員	<p>計画の成果の中に具体的な数字があった方が説得力がある。また経年変化をみる上で、平成27年度は○校、28年度は○校、何名という形にすると取り組みの評価ができるのではないかと思ひ質問した。</p>
議長	<p>ありがとうございます。取り組みの評価という意味でも具体的に何年生、何人位、どんなものを、どのくらい、等把握しておいた方が良いということか。その他に何かあるか。</p>
委員	<p>意見無し</p>
議長	<p>それでは次の成人・高齢者への食育の推進ということで質問・意見などあるか。</p>
委員	<p>食生活改善推進員が実施している健康づくり料理講習会というのは市内7ヶ所で実施しているが、PR不足を感じる。魅力あるPRをするにはどうしたら良いかを考えないといけない。参加すれば十分に理解し楽しんもらえるが、参加につなげるのが難しい。また、ヘルスマイトについての周知がまだまだ不足していることがヘルスマイトの増加につながらないのではないかと思う。</p>
議長	<p>食に関するボランティア活動等への支援についても意見をいただいた。いかに関心をもってもらうか、行きやすい場所を設定できるかということに配慮が必要ということだろうか。</p>
委員	<p>水谷東小では、田や畑で作物を作っているが、指導者は教師であるため、専門的な指導は望めない。農家の方にボランティアで来ていただく等のシステムが</p>

	<p>あれば学校としても取り組みやすいと思う。教師が忙しいと最後の収穫まで目配りができないこともある。我々地域の市民に依頼してくれれば一緒に手伝えると思う。今の時期は田や畑が空いているのでどんどんやってもらって良いと思う。子どもの頃から食物を育てることは大切だと思うが、そのような取り組みは学校としては難しいと思う。ただ作るだけではなく、最初の準備から収穫の最後までという流れを基本にしていかないと、子どもたちに十分な教育効果が得られないと思う。</p>
委員	食生活改善推進員というのは資格が必要なのか？
委員	規定の学習時間があり、その時間学んでいただいた方が食生活改善推進員協議会の会員になれる。
委員	富士見市全体には現在何名いるのか。
委員	現在74名である。
委員	私の大学の副学長によると長野で健康づくりの成果が上がっている市があるらしい。詳しく聞くと、食生活改善推進員の会員数が多いのだという。食生活改善推進員が核となって地域の健康づくりを啓発したという事例であったらしい。「食改さんは大事だよ」と何度も聞いた。平成27年度に会員が増えたというのはたとえ10人でも大変良かったと思う。
委員	私は自分の任期中に100人以上を目指している。創立は40年ほど前になるが、婦人会を中心に活動していたため、宣伝しなくても地域に当時はたくさんあった婦人会を通して声を掛けることができた。会員数が250人位になった時期もあった。
議長	具体的に100名以上必要とか。目指すとか。何か目標値を入れておいた方が良いかもしれない。
事務局	健康増進計画では食生活改善推進員は平成37年度に80人が目標値となっている。毎年何名か養成しているが、会員には高齢等の事情で退会される方もいるため、一気に増やすのは難しい。
委員	川口市は150～160人、さいたま市は500人、富士見市は最低でも100人いると良いと思う。
議長	まずは100人を目指して。まんべんなく市内で活動できる形が望ましいと思う。
	<p>それでは次は食事のマナーや文化の継承について、何かご意見などあるか。この中に「和食を中心に」とあったが、和食を中心というのは意味があるのか。伝統文化の継承というところか。</p>
事務局	日常的に日本人として食べている食事であるし、また、身体に良いというところからだと思う。
議長	では次の地産地消の推進に関しては、いかがか。質問事項などあるか。市役所の1階にある売店「ゆい」は活用されているのか。
事務局	売店「ゆい」では、地産地消ということで旬の野菜などを販売している。その他、市役所ホールにおいて月に1回臨時農作物直売所「つきいち」を開催して

議 長	いる。 市内スーパーで生産者の名前と写真がついていて、「誰々が作った何々です」と書いてある。非常に美味しい野菜だと聞けることがあるが、「つきいち」でもそういう形でやっているのか。
委 員	地産地消ということで富士見市産とわかるシールを貼っている。直売所でも同様にしている。
会 長	それに関しては、これでよろしいか。
委 員	意見無し
議 長	身体活動・運動について、運動習慣づくりの推進に関してご意見・ご質問等はあるか。
委 員	体育協会でも健康増進スポーツ大会等やっているが、年々参加者が減ってきている。どの事業も若い方の参加が減ってきている。何が原因なのかと思っている。 例えば体育協会の事業以外のことでも、やはり若い方の参加は少ない。今は働かないといけない時代なのか、若い母親や父親の参加も少ない。しかし、親子で参加するものは男性が積極的で、母親ではなく父親が連れてくることが多い。男性が育児に参加するという時代の流れのせいかな。子どもを連れて、遊びに来るといというのは、時代の流れと共に変わってきているのかなと感じる。体育協会でも色々検討している。
議 長	予防接種も、父親が連れてくるケースが多い。普段の子ども状況等分からないままで、連れて来院する。乳幼児健診ではどうか。
事務局	最近はお親揃って来所する方もいる。父親と子どもだけで来る方もいる。
議 長	本当に若い方たちは、運動するだけの余裕がないのか。若い方でも参加できるような魅力的な運動習慣づくりが必要かもしれない。
委 員	高齢者、定年した男性の卓球サークルが増えている。これはどこの公民館でも同じで、男性も外には出るようにはなってきた。自分の健康のために、という志向は強くなってきていると思う。
委 員	ココシルふじみというのは、皆知っているのか。これは周知されているのか。
事務局	ホームページやチラシ等で知らせているが、高齢でスマートフォンを持たない世代の方も多く、また、若い方の参加もまだ少ない。
議 長	それでは子どもの運動に親しむ力と体力づくりの推進に関して。市内の小中学校の校医をしているが、いわゆる「小児ロコモ」を防ごうということに力を入れている。今の子ども達は、ものを投げる力が落ちている。また、雑巾がけで自分の体を支えきれず歯を折る子もいた。子どもの体力不足を実際に見て感じた。 昔は外で遊ぶのが当たり前だったが、今の子ども達はやはり室内でゲームをすることが多いのか。休み時間はどのように過ごしているのか。
委 員	昔は「子どもは風の子」と言われて、放課後は外で遊んでいたが、今では殆ど家にこもってゲームをしている。体力不足であると思う。

委員	本校や、他の学校もそうだと思うが、業間休みは教室内で過ごすのではなく天気が良ければみんな外に出ようと声掛けしている。また、縄文マラソン等市の事業があると、子ども達に声を掛け、参加する子どもと一緒に走ったり、ドッジボール大会の前にはみんな練習したり、学校の中だけではなく、どこかに行ってみんなで競い合おうといったことも、子ども達の意欲を高めるのに有効であると思う。スポーツ大会等の取り組みは良いと思う。外遊びを奨励していても、校庭が狭い場合は十分に遊べない等の課題もあるが、学校としてはすすめていく考えでいる。
議長	それでは健康づくりのための運動に関して。医療の中でも患者に対して症状に合わせた運動を勧めてはいるが、本人ひとりで取り組むのは、なかなか難しいようだ。健康増進センターでは運動に関しての教室は行っているか。
事務局	平成27年度については主に生活習慣病予防という観点で、講話、運動、調理実習を含めた3日間の教室を実施した。3日間ということで参加しにくいのではないかという意見もあり、平成28年度については、参加しやすいよう1日単位の運動の教室を実施している。来年度は県で実施を進めている「埼玉県コバトン健康マイレージ事業」というものが始まる。市民に万歩計を貸与して、それを持って歩いた歩数に応じてポイントが付き、抽選で賞品が当たる、という内容で、運動に興味がない方や、普段通勤で歩く程度の方にも取り組んでいただけるような形で計画をすすめているところである。
議長	では、続けて高齢者の身体活動の推進についてだが、この介護予防教室63回実施とあるが、この主体は高齢者福祉課でよろしいか。
事務局	こちら健康増進センターの事業である。
議長	具体的には、動けない方の、例えば車いすへの移動の仕方などか。
事務局	原則として健康増進センターの事業は介護保険を利用していない方が対象になっているのでいわゆるリハビリ的なことは現在実施していない。家で立ったり座ったりが難しいというレベルの虚弱の方達のための教室はあり、それがこの63回中の39回実施している。
議長	参加人数はどの位か。
事務局	虚弱な高齢者向けのもので、延人数で年間700名以上。それ以外は元気な高齢者向けの教室で、お口の健康づくり、尿漏れ予防、腰痛膝痛予防等テーマを絞ったものである。そういうものは1回に20名弱位の参加者である。教室への参加後は、自主グループを作って学んだことを仲間と継続していくことをすすめている。
委員	私は、母子保健推進員として健康まつりに毎年参加している。開会式でパワーアップ体操を実施するので一緒になって体操をしてみると、自分の体幹の力が落ちているということが分かる。それを年配の方が簡単に掛け声を掛けながらやっているのを見て、これは良い、若い人もやるべきと思った。可能ならホームページに動画を載せると良いと思う。若い方はネットをよく使うと思う。教室に行く時間はないけれども寝る前に運動をやりたいという場合、パワーアッ

事務局	プ体操は良いと思う。
議長	ターゲットの年齢が高いので、パワーアップ体操のDVDを販売している。ネットでの動画配信は意識していなかった。
委員	前向きに検討していくということによろしいか。 次に、健康管理に関するもの、妊産婦に関して、離乳食教室を開始したこと等があった。これに関してはいかがか。
議長	「妊婦健診費用を助成し、経済的支援を行います」の成果が、「14回分の妊婦健診費用の助成」とあるが、これでは経済的支援がどの位だったか分からないと思う。数値で「いくら支援した」「何人支援した」という方が、事業の施策の成果について具体的に分かる。なおかつ今後の課題はそれに対して予算的に今後増やすのかどうか、そういうところを書いてあると非常に良いのではないかと思います。
事務局	これは委託医療機関と契約しているのか。
委員	二市一町であれば良いのだが、市外に里帰りをして出産する方もいる。全国各地で受診した領収書を送ってもらうが、金額的にはかなり膨大な予算になると思う。
事務局	そういうことは市民にも分かってもらった方が良い。
委員	国の制度で、健診14回分で大体妊婦一人当たり10万8千円と予算が決まっている。金額を記載するとなると他の項目でも予算を記載しなければならない。
事務局	14回分の健診の費用を助成していただく妊婦さんは余り自費を使わずに出産を迎えられるくらいの計算になるのか。
議長	国の制度であり、国で回数を増やしてきており現在は最大14回まで認めている。
委員	妊娠・出産は保険診療ではないので助成している。色々な項目が各医療機関で付加される。国だけの費用では到底賄えないものである。大体の場合、自費で支払う分がある程度はある。入院中の食事などを考えると国が全部賄うというのは違うと思う。
事務局	出産にはかなり高額な費用がかかると認識はしていたが、妊婦健診に関しては、そういう現状か。
委員	ちなみに平成29年度は埼玉県でも出産後の母子の1回目の健診についても県で補助することを考えていると聞いている。
事務局	離乳食の教室の件だが、教室に市民が出向くというのは非常に大変なことだと思う。ホームページに載せたり動画に載せたりした方が気やすく見たりできるのではないかと思います。
事務局	大人向けの料理レシピ等に関してはホームページに掲載するようにしている。離乳食教室については、離乳食の相談を受けながら、その場で母乳の相談も受けており、大変重要だと思う。ホームページ等への掲載についてもしっかり進めていきたいと考える。

委 員	私達が子育てをした時代と違い、今の若い母親は子育てに関する情報について、分からなければスマートフォンやパソコンで積極的に取りに行く。一方、子どもがちょっと泣くとスマートフォンを与える親もおり、子どもに必要な環境が与えられていないこともある。ネット社会になって良いことはたくさんあると思うが、赤ちゃんにとっては余り好ましくないことも多い。家が綺麗すぎて赤ちゃんのおもちゃがなかったり、少し前までは「ちゃんごはんを食べさせていますか」「母乳は出ていますか」等聞いていたが、今は、まず生活スタイルを見てアドバイスすることが多くなってきた。ホームページ等に離乳食のことを載せなくても意外とそのあたりは大丈夫かもしれない。
議 長 事務局	子育てのポイントを市役所から発信したらどうか。 母子保健推進員にはお世話になっている。市でも妊娠・出産のときに面談をして色々な悩み相談等を受けている。来年度から子育てに関するスマートフォンのアプリを導入する。妊娠届時に登録し予定日を入力すると、妊娠4～5ヶ月になると、「お腹の中の子どもに爪が生えている」など目に見えない胎内の子どもの成長の度合いをメールで随時送信するなどの機能もある。また、母子保健推進員や保健師が、出産後の2～3か月の全戸訪問や、7～8か月の訪問など、様々なポイント毎に訪問している。訪問を断ったり、会ってくれない家庭については、来年度、子育て包括支援センターを立ち上げ、虐待や貧困で子育てしにくい状況を早く見つけることも含め、きめ細かな切れ目のない支援を行っていく予定である。
議 長	期待している。 それでは次の乳幼児の健康管理に関してはいかがか。
委 員	意見無し
議 長	それでは次の健康づくりの推進、はつらつ教室、生活機能アップコースとあるが、1回あたりの参加者と教室の内容はどのようなものか。
委 員	先程の運動習慣づくり、高齢者の身体活動の推進のところでも出てきた虚弱な高齢者向けの教室である。そういう方は基礎疾患のある方がとても多いため、ただ運動をするだけではなく、医師とのやりとりができていないか、健診はどうか、等の生活管理・健康管理全体を相談しながら進めている。
議 長	健康増進センターは教室が多いことがわかる。ヘルスアップ教室もそうであるが、健康増進センターを身近に利用している市民は良くわかるのだろうが、そうでない市民にとっては分かりにくいかもしれない。こういう取り組みをしていますよ、と上手い周知の方法を考えていただければ良いと思う。 他に気付いた点など何かあるか。
委 員	意見なし
議 長	何も無いようであれば、次の生活習慣病の予防、その次の各種健診の実施について何かあるか。
議 長 事務局	この各種健診に対する受診率の目標はあるのか。 受診率の目標については、健康増進計画の中で、目標値として出している。そ

議 長	<p>ここに各種がん健診や乳幼児健診の受診率の目標値が記載してある。</p> <p>平成26年度の実績が健康ライフ☆ふじみに書かれているが、それと比べると、妊婦健診に関する助成券の利用者数というのは少し増えている。4か月児健診は横ばい、肺がん健診は少し上がっており、大腸がん健診も少し上がっている。胃がん健診は少し減っている。</p>
事務局	<p>大きな流れとして今まで富士見市の一番の弱点は胃がん健診の受診率が非常に低いことである。ひき続き、今後も早期発見のための健康診断に関しては計画のとおり実施していきたいと思う。</p>
議 長	<p>次に、こころの健康に関してはいかがか。こころの体温計がホームページに出ており、活用するように私の仕事の分野でもアピールしている。また、自分も産業医活動の中でストレスチェックを3社行っている。職種としては運転業と製造業と営業職があり、問題が多いのは営業職である。運転業は自分で自分の時間が決められる生活でストレスが少なく、製造業は淡々と工場勤務して自分の業務を行えるからだろうか。</p> <p>では次に歯と口腔の健康について現況と課題についてはいかがか。何か補足すべきことがあればお願いしたい。</p>
委 員	<p>今年状況について説明させていただく。6月に歯と口の健康フェアを歯科医師会で主催した際、小中学生を対象に標語コンクールを行い、市内小中学生の1割位の850人位の応募があり、市長賞、教育長賞、市議会議長賞を授与した。市議会議長賞を受賞した子どもが埼玉県コンクールの方でも優秀賞に選ばれ記念品もいただいた。平成29年度も第2回を継続して行っていく予定である。また、10月の健康まつりでは今年度は趣向を変えて、これまで実施していた歯科健診はやめてスポーツ吹矢を始めた。健診を目当てに来る方が多いかと思っていたが、230名ほどの参加があり評判が良かった。成人歯科健診は以前から受診者数が少ない状況だったが、平成27年度に妊産婦への歯科健診を始めたことで少し受診者の数が増えてきた。埼玉県では保険者が行う後期高齢者の長寿歯科健康診断というものを始めて、75歳になった年の1年のみ無料で受けられる。また、3歳児健診の時にフッ化物塗布を始めたが、好評であった。食後のぶくぶくうがいについては、市内の小中学生は約8割、中学生は半分位実施している。埼玉県歯科医師会で「歯をみがこう」というCDや「私の歯ッピーファイル」という歯みがき指導用の冊子等を作成し、子ども達が歯と口に関心を持てるようにPRしている。</p>
議 長	<p>非常にアクティブに活動いただいている。むし歯等だけではなく、嚥下なども診ているのか。</p>
委 員	<p>高齢者向けのはつらつ教室の「脳ヂカラ・噛む力アップコース」などで講義をしている。</p>
議 長	<p>今後もぜひ続けていただきたい。本日、審議していただき、大変貴重なご意見をいただいた。平成29年度の審議会の大きな役割は年度毎の評価をすることとなる。</p>

事務局	<p>来年度の審議会で計画の評価をするに当たり、項目ごとに担当部署を示させていただきます。</p> <p>来年度には平成28年度の成果について色々ご意見・ご指導を承りたいと思う。</p>
事務局	<p>「健康ライフ☆ふじみ」については、平成28年度から始まる計画ということで、来年度からは進捗状況を確認することになる。庁内の担当課より提出されたものと、委員の皆様が各方面で取り組まれていることについて報告いただくことになる。また、来年度も年2回程度審議会を実施する予定である。ご協力いただきたい。</p>
議長	委員の皆さま、質問・ご意見等あるか。
委員	質問なし
議長	これにて閉会させていただきます。
4 その他について（特になし）	
5 閉会	